

いんげん 歳時記

◆九年母（くねんぼ）の樹

狩生 野々下 静

平成五年の第一回「古文書解説講座」で天保十年（一八三九）の『御郡廻・御用日記』が題材になった。十一代高泰一行の領内巡見の道中、各村々から献上された地元産品が記録されている。これを佐藤巧氏が地図上に図示して一覧表にしたものを頂いた。その中で蜜柑と並んで九年母が多く献上されていることを知ったが、「九年母」という柑橘類を見たことも聞いたこともなく、地元記憶する人もなかった。

ろ、次のような回答が返ってきた。

◎九年母は、江戸時代以前にベトナム地方より沖縄を経て日本に入ってきたと伝えられる。

◎果肉の大きさは一四〇グラム内外で柔らかく多汁であり、糖・酸ともに高い。また「九年母臭」といってレモンやオレンジと並び、大変独特の臭いと香りの良さで珍重されていた。

◎昭和五〇年代までは津久見市上青江の畑地区に出かけると、お茶受けに九年母の味噌漬を食味した。

◎津久見の試験地には、昭和五十四年品種保存として栽植した九年母が現在、一樹だけ残り結実をつづけている。

今や県下で一本だけになった九年母、昨年はその貴重な果実をもらって味噌漬にした。一六一年前の古文書から奇遇にも出会った九年母に、柑橘栽培

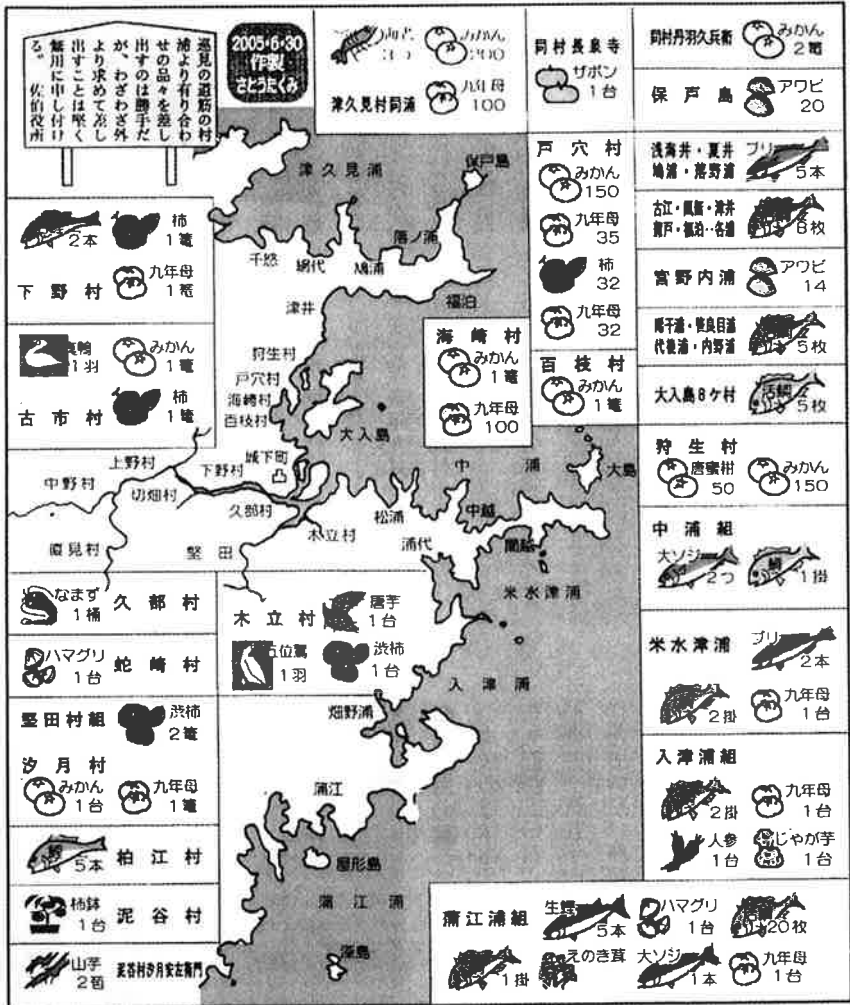
の歴史と変遷を思いながら味わった。



【九年母】インドシナ原産で、南支那から沖縄を経てわが国に伝わった。沖縄のクニブ、フニブが鹿児島でクネブとなり、転じてクネンボとなったという。現在、沖縄では柑橘類を総称して「九年母」といい、喜界島の特産品にもなっている。

殿様の郡廻りと村々の献上産品一覧

11代毛利高泰 天保10年(1839)10月



◆六代と八代藩主の忌日に

齟齬そご(くいちがい)あり

温故知新録(一)

中の島 林 寅喜

③ 鶴藩略史

養賢寺の沿革

④ 養賢寺位牌

⑤ 毛利家墓碑

右に記された忌日

☆六代高慶

① 寛保三年九月十三日

② ①に同じ

③ 記載なし

④ 寛保三年九月十二日

⑤ 寛保三年九月十三日

☆八代高標

① 寛政十二年八月六日

② 享和元年八月二日

③ ②に同じ

④ 享和元年八月七日

⑤ 享和元年八月二日

【註】訂正前の資料をお持ちの方、ご承知置き下さい。資料ご希望の方は凡三二一六三五八まで。

●高政母の墓

高政の母はあざち様と云い、高政から久部村五〇石、久部・長瀬村の茶園から茶一石五斗を進上され、久部村に住んでいた。あざち様は法名妙西尼と云い、かつて三河上宮寺の一向宗門徒だったので、高政は東本願寺教如上人に請願して免許を下付され、古市善教寺を佐伯領内の真宗総本山とした。



養賢寺毛利家墓所

その後良く調べていたら、六代と八代の忌日に齟齬そごがあることが分かったが、何れが正しいか判断し難い。そこで再編の資料には墓碑の忌日を正と見なし他は全て小文字で追記した。

齟齬の対照となった資料と物件

① 毛利家御世統忌日覚 温故知新録

(一)

② 東禅寺安置御先靈様方法名書

方は凡三二一六三五八まで。

寛永四年(一六二七)三月四日、妙

西尼は没したが、当時善教寺に住職が（厄年で）居なかつたので埋葬は養賢寺に申し付けた。御廟所は久部村にあり法雲院殿と号した。

正徳四年（一七一四）六月、高慶は法雲院殿の由来を尋ね、善教寺に法雲院殿の位牌を据え霊供を備え付けるよう、また毎月四日に久部村廟所へ代参の時は善教寺へも参るよう申し付けた。九月に位牌が出来たので二十四日に善教寺で供養が執行された。

「法雲院殿釋妙西尼公 正定聚位」



善教寺の位牌



毛利家墓所の墓

以後歴代藩主の恒例祭事となり、天保十年（一八三九）高泰の領内巡見の際にも寺社奉行の案内で久部村の廟所を参詣した記録がある。しかしこの廟所は何処に何時まであったのか定かではない。

現在養賢寺毛利家墓所の高政靈廟の前に石室に収められた小さな五輪塔があり「寛永四年三月四日・元光良月大姉」と刻まれている。法雲院殿の禪宗の戒名である。他の墓塔とは明らかに石質も様式も異なっており、あるいはここに移されたものかと思われる。

◆緒方洪庵と高橋玄策

暁干区 野々下 晃

佐伯史談二〇四号「ふるさと歳時記」の中で、一八二九年頃大坂の瓦町で蘭学塾を開いていた緒方洪庵の祖先が、佐伯庄に住みその姓が佐伯氏である事情が判った。そのためか洪庵が極めて身近に感じられるようになった。そんなある日、米水津浦代の会員高宮昭夫氏から突然電話をいただいた。それによると洪庵方に入門した高橋玄策は浦代の出身であると云う。しかしその墓は浦代にないらしい。

記録によると玄策は大坂瓦町で開塾していた洪庵方に入門後狂死している。浦代に墓がない事情も頷ける。高宮氏は『佐伯史談一三一号』に「村史編さん資料の収集について―主に高橋玄作のこと―」を発表している。

●高橋玄策と井上庸春

緒方洪庵の「適々齋塾姓名録（天保十五年より）」には、高橋玄策は安政二年三月七日に入門している。福沢諭吉は二日後の九日に入門しているのと同期生である。

「福翁自伝」によると塾での生活は、刀も質に入れて、暑い夏は襦も付けない真裸、飯も立って食う。塾風は不規則・不整頓・乱暴狼藉、物事に無頓着・不潔・不衛生、手洗い盥で野菜を洗い素麺を冷やした…。但し、蘭学の修得には食欲で医学や科学技術の実験も自主的に試みたことが記されている。

高橋玄策が「狂死」したというのは尋常な死に方ではない、何かのトラブルに起因するものであろう。

彼らが入門した安政二年（一八五五）佐伯藩では、蒲江浦波当津の医師井上

庸ようのん 春が佐伯地方で初めて種痘を行い多くの人命を助けた（鶴藩略史）という。井上 養やう 春は文政元年（一八一八）海崎村百枝の医師近藤養庵の次男として生まれ、波当津浦の井上長右衛門の養子となって京都に医術を学び、また大坂緒方洪庵の塾生となって種痘を学んだ（蒲江町人物誌）という。ただ「適塾姓名録」の中に入門者の記載は無い。



姓名録と入門者名

◆平和祈念館リニユアルオープン

「やわらぎ」が改装・展示替えを終えて四月二十一日再オープンした。

館内では軍都佐伯の歴史から世界大戦について検証する。順路は次の通り。

一、明治以降の世界と日本

プロローグ

①写真でさかのぼる軍都佐伯
第二次大戦までの世界と日本

②明治から第二次大戦までの日本

③佐伯に築かれた軍事施設

二、佐伯と戦争

佐伯と海軍航空隊

④海軍航空隊シンボル展示

⑤海軍航空隊兵舎

⑥海軍航空隊の誘致から建設まで

⑦佐伯海軍航空隊 1

⑧佐伯海軍航空隊 2 「隊員たち」

⑨佐伯海軍航空隊 3 「連合艦隊」

⑩佐伯海軍航空隊の全容

⑪写真で見る佐伯海軍航空隊の日々

真珠湾攻撃と佐伯

⑫真珠湾攻撃と佐伯

⑬燃え上がる真珠湾

⑭真珠湾攻撃の実像

戦前～戦後の佐伯

⑮出征

⑯戦争と佐伯のくらし

敗戦から終戦後の佐伯

⑰敗戦と佐伯のくらし

⑱歴史の証人たち～佐伯を語る～

佐伯の子どもたちと戦争

⑲戦時下の子どもたち

⑳教科書・雑誌に見る戦争

三、平和を考える

戦いやまぬ世界

①第二次大戦後の世界情勢

②平和を求めて活動する人々

③モニユメント展示

四、野外展示

佐伯に残された傷跡

①佐伯湾で引き上げられた

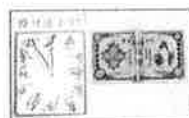
航空機の残骸

※平和祈念館パンフレットより

2.4敗戦～終戦後の佐伯

1945年(昭和20)に入ると佐伯も空襲を受け、多くの市民が犠牲になりました。8月15日、日本はついに降伏し、戦争は終わります。

1947年(昭和22)戦争放棄と永久平和を掲げた日本国憲法が施行されました。平和の象徴となる新憲法は国民から歓迎され、民主国家日本の基盤となりました。



【上】青い部
町民食料難の時に、百姓らに提供した
【中】戦時らしい軍用品の複製
昭和22年 奉天講堂会館行
戦時下の兵隊生活と戦時下の
生活の苦難が描かれた
【下】戦争と科学
科学技術の発展から見た戦時生活



2.5佐伯の子どもたちと戦争

1941年(昭和16)尋常小学校が国民学校に改められます。国民学校では、「天皇にしたがひ、国につくす」子どもを育てることが第一の目標となりました。戦争末期には国民学校初等科のぞき1年間授業が停止され、中学生や女学生たちも軍需工場などに動員されました。



3平和をかんがえる

第二次世界大戦が終わり、日本は平和な時代をむかえました。しかし世界には地域紛争や民族対立などに苦しむ多くの人々がいて、貧困、差別、災害、感染症など平和な生活を脅かすものもたくさんあります。また、地球規模で進む環境問題では、人類の生存そのものが危機に瀕しています。地球上の人々がネットワークでつながる今、世界の問題を私たち自身に引き寄せ、解決の道を探っていくことが求められているのではないのでしょうか。



◆山本五十六元帥と佐伯

世田谷区 麻生英臣

去る五月六日新潟県長岡市を観光しその折、山本五十六記念館を訪れました。ガラスショーケースの中に昭和五年十二月（赤城が佐伯入港）十五日、「佐伯町高野山大日寺」をおとずれ巡礼帖に朱印スタンプを手取した現物が展示されているのを見つけました。

長岡市の場合には戊辰戦争との関係を観光の目玉にしていますが、佐伯の場合には太平洋戦争との関係を大々的にやるべきと思います。「池彦」修理保存の整備計画書をさっそく山本元帥景仰会に贈りました。

佐伯には元帥ゆかりの池彦やほうらい館などの建物が残っている旨を記念館の方に伝えましたところ、よろしく大切に保存して欲しいとの返事が生じました。佐伯史談会として将来的には

この長岡の「元帥景仰会」との交流を展開すべきかと思えます。

以前大手前に「南海キャバレー」があり、そのマダム（経営者）が池彦で山本五十六のお酌をしたといわれており、この女性が生きておれば、山本長官の印象をヒヤリングしてみたいものです。

（佐伯観光絵はがきコピー提供）



▲記念館外観



船頭町川（池船橋から）1963年夏 麻生撮影



昭和初期 佐伯観光絵はがき

◆新刊図書紹介

「大分県の不思議事典」 新人物往来社

甲斐素純／渋谷忠章／段上達雄《編》

大分をなぜ「おおいた」と呼ぶのか。

豊後国に「一の宮」が二つあるのはなぜ。

福沢諭吉が生育地の中津を嫌ったのはなぜ……。

大分県人も知らない大分県

のなぞ・不思議一九〇項目を十八人の執筆陣で描くものしり事典。

A5版上製 ●定価3150円

「豊かな佐伯城山の自然」

森と遊び、森を学び、森を知る

発行 番匠川流域ネットワーク

執筆者

真柴茂彦（自然・植物・動物）

武石宣彰（鳥）

平野憲司（哺乳動物）物

山崎美土子（子どもの遊び）

A5版32ページ 無料



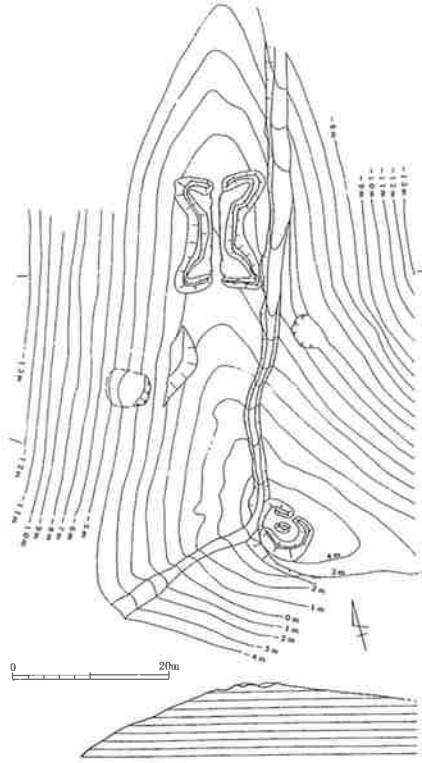
大分県の西南戦争関係地図

「西南戦争の記録」第一～三号

西南戦争を記録する会

四月十四日、県埋蔵文化センター高橋信武氏の案内で重岡大原峠付近の西南戦争激戦地を探訪、県境の尾根伝いに築かれた幾つもの台場を見学した。

この峻険な峰々に大砲や兵糧弾薬を運び上げた兵隊や人夫、かり出された村民の苦勞を思わずにはいられなかった。



18号台場(上)・19号台場(下)実測図



文化11年(1814)

③ 従是西落畑景平〇〇組共有地界柱
花木

見明



明治二十三年三月十二日建設

官林境柱従是南山升木官

② 従是.....

従是西北落畑日平字大原組共有地

① 明治十八年十二月五日〇〇〇

を写真に撮ったが字がよく見えない。

なのだらう。また境界を示す標柱三本

大原越の峠道には江戸期の地藏尊がい

くつか見られ古くから利用された山道

「天守の声」

山崎人功著

戦国の世をしたたかに生きぬいた

石川教正・康長父子の謎とロマン

謹啓春暖の候、御健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、松本城天守築造の偉業を成し遂げながら、改易配流の悲運に襲われた石川教正公・康長公父子の生きかたを描きつつ歴史の謎とロマンに迫る歴史小説「天守の声」を上梓しました。松本石川会の解散を寂しく思っている者ですが、御一読いただければ幸いです。末筆ながら御健康をお祈り申し上げます。敬具

二〇〇七・四・十二 山崎人功

善教寺住職様

※佐伯に配流され善教寺に祀られる石川玄蕃守康長の物語です。購入希望者は善教寺桑門超まで 定価一六八〇円

天守の声



「元越山ガイドマップ」

展望360度。地球が丸く見える山

【内容】

○元越山 (標高五八一・五七九)

二〇〇二年八月、九州百名山に指定

佐伯市木立に位置する

木立地区公民館発

○元越登山案内マップ

○明治の文豪、国木田独歩が愛した山



◆三ヶ寺を中興した月庵和尚のこと

佐伯市新女島の新入会員三股廣喜氏は米水津竹野浦の出身で、同浦潮月寺の中興開山月庵和尚の墓碑銘を写真に撮って持参された。

月庵和尚の出生は定かではないが、若い頃は堅田波越の常楽寺で修行をしていたようだ。常楽寺境内にある永禄十三年（一五七〇）造立の六地藏塔に

千部経衆の一人として月庵意公首座の名が刻まれている。首座（しゅそ）とは禅宗修行僧のリーダーをさす役職名で、首座になることが住職資格を得るための条件となる。

肯永禄十三年庚午三月如意朱日
 謹奉造立地藏一基経衆次第不同
 千部経衆 守公主座 後藤新左衛門
 桂岩和尚 守公記室 松尾伯公記室
 章 庵 忠公記室 月庵意公首座
 命威主座 所雲道善女 林公記室

壬公主座 小次郎

その後日向耳川合戦のあった天正六年（一五七八）因尾村（本匠）に瑞祥寺を開基したと伝える。

また堅田津志河内の福厳寺は天正十八年（一五九〇）に三股甚右衛門が創建し月庵が開基したとあり、天正二〇年建立の月庵逆修墓（生前供養の墓）が残されている。

謹奉逆修善根七分会得功德主
 當庵中興月庵意和尚

于辰天正稔年壬辰黄鐘吉日

徳川の世となり月庵は米水津竹野浦潮月寺にあって慶長十年（一六〇五）

やはり逆修墓を建てている。その墓碑銘に「前の瑞祥・福厳、及び潮月寺の三所を中興した」ことが刻まれている。

謹奉建石塔一基逆修善根功德
 前水祥 福厳三所中興月庵意和尚
 于辰慶長十乙巳二月彼岸日 敬白



月庵の逆修墓



今は無住となった津志河内福厳寺山門